母語指導を取り入れた社会的背景

岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室

理念　H13（2001年開設）【後発だからできた理念】

① 外国人児童生徒が日本の学校に適応できるように指導する。そのことが，日本人児童生徒にも好影響を与える。
② 市内すべての小中学校に在籍している児童生徒に同じ教育をする。
日本語を話せるからいいではなく，授業についていけるようになるまで指導をする。
③ 地域でおきている外国人差別・偏見の是正を学校からひろげていく。
④ 未就学・不登校児童生徒をつくらない。
⑤ 親とコミュニケーションがとれるよう，また，母語・母文化保持のため，ブラジルの教育を取り入れる。
★ 日本一愛のある『適応指導教室』を目指す。　【愛】とは，見捨てないこと！

『日系ブラジル人少年・集団リンチ殺人事件』

「ブラジル人だから」
こんな理由で，1人の少年の命が，日本の少年グループによって奪われた事件
１９９７年　１０月６日　午後　９：１０頃　愛知県小牧市ピーチライナー，小牧駅
愛知県小牧市の名鉄小牧線小牧駅の駅前広場にたむろしていた日系ブラジル人の少年たち十数名が，日本人の少年ら二十数名に襲撃され，無抵抗のブラジル人少年等に，日本人少年等が暴行を加える。
この時，ブラジル人少年等は駅員に助け（「タスケテ」）を求めている。
小牧市市内の人気のない公園で，駅より車で連れ去られたルコセビシウス・エルクラノ・レイコ君に，執拗なまでの暴力を加え，ナイフで太ももを刺されるなどの重傷を負って，１０月９日死亡した。当時１４歳。

『団地での文化・習慣による摩擦』
～　『国際団地』（制作　東海テレビ）より一部抜粋　～

豊田市教育委員会によると，平成13年2月現在，市内に住む小･中学校の年齢に相当する外国籍の児童・生徒のうち，半数近くが学校に通っていない。いわゆる不就学・未就学である。母国語であるポルトガル語も日本語もきちんと話せない，自分の気持ちすら満足に伝えられない子どもたちがたくさんいる。
団地では，不就学の問題をはじめゴミ・騒音・駐車場など文化・習慣の違いから生じた問題が数多くある。自治体も「共生」という厚い壁に挑もうと，ようやく重い腰をあげた。しかし対策はなかなか見つからない…，これが現状である。
国際団地，保見団地が抱える問題は，まさに近い将来，日本の至る所で直面する問題。

『明治という時代』　～　移民の歴史　～

1908年に最初の日本移民を乗せた「笠戸丸」がブラジルへ向かうこととなった。彼らの多くは，数年，稼いだら日本に戻るつもりであったが，ブラジルでは，思ったような労働条件や賃金体制ではないうえに，「文化習慣の違い」に戸惑い，その上，「言葉の壁」が重くのし掛かり，故郷に錦を飾って帰国することは夢でしかなかった。このような状況の中でも，日本人としての誇りを忘れずに，移民としてブラジルで苦労しながら，生活の糧を得ていった日本人がいたこと。そして，そういう日本人を支えてくれたブラジル人がいたことを忘れてはならない。
「海外で働いてお金を貯め，自分の国へ戻る」という想いは，時代の流れを経て，日

系ブラジル人に引き継がれ，『デカセギ』という形で，収入を得るために比較的短期間日本で就労し，帰国する者が多かった。『デカセギ』で来日した多数の日系人が，ブラジルの地へ移住した日本人と同じような「文化習慣の違い」「言葉の壁」で苦労をしながら，生活の場を日本に築こうとしている。

そのような日系ブラジル人に対して，岩倉市では，ブラジル人との架け橋となるブラジル人講師を配置すると共に，言葉の壁からくるストレスを緩衝するべく，ポルトガル語教育を取り入れることとした。同時に，日本語教室の位置付けを「心の居場所」とし，ほんの一助であっても，「日本に来てよかった」と感じてもらえるよう，愛をもった指導体制で開始した。

【母語指導・日本語指導・国際理解等　課題・方向性】

① 人的配置
- ブラジル教員免許保持者もしくは，理念に賛同し，同じ目線で指導にあたれる人材の確保
- 優秀で熱心な人材の流出を防ぐために，毎年，時給・時間数を増やし，ブラジル人講師の生活保障をする。(他地区の調査等を実施)

② 予算措置
- 当初，政府が打ち出した緊急雇用対策費用（半年）をあてる。
- 2年目からは，岩倉市採用のブラジル人講師として，1年間の採用になる。

※　実績の報告，行政に諸問題を報告し，必要性を訴える。

③ 各学校での取り組みではなく，岩倉市としての活動であることを周知する。
- 連絡協議会の設置
- 教育委員会・校長会のバックアップ
- 巡回担当者会等で，各校の先生方と意見交換
- 各種，マニュアル，担任向けハンドブックの作成
- 現職教育や「＋α研修」等を通じて，岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室の活動を岩倉市全体の先生方に広めていく。

④ ポルトガル語指導の成果と課題
- ○　母語保持，バイリンガルの育成（※　家庭では母語を，学校では日本語を！）
- ○　保護者との意思疎通
- ○　外国人であることに誇りをもたせる（アイデンティティー）
- △　行政の理解
- ×　外国人増加に伴う指導時間数の減少（週3時間→週1時間）
- ×　他言語　母語保持への対応

⑤ 国際理解への取り組み
- 南部中学校　　南フェス　－　各国の紹介，日本語教室での交流
- 岩倉中学校　　コスモス祭－　ブラジルのお菓子・ミサンガ作り，簡単な会話
- 五条川小学校　国際給食　－　外国にルーツを持つ児童が集まって給食，交流
- 岩倉南小学校　お楽しみ会－　外国にルーツを持つ児童が集まってのお楽しみ会
- 岩倉東小学校　各種行事　－　外国人が多いことを生かした運動会や学芸会

⑥ 日本語能力試験への挑戦
- 将来のため，目前の目標を明確にするため，自己肯定感を味あわせるために実施

★　岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室は，岩倉市教育委員会および市内7校の全面的な理解・協力があって，成立している組織であり，連絡協議会や巡回担当者会等で，様々な立場の先生方や教育委員会の意見を取り入れて，毎年，改善すべきところを各方面で協議の上，臨機応変かつ柔軟に実施していく姿勢で行っている。